

# 狩猟者の減少について～猟友会の捕獲技術の伝承に関する研究～

4年 坂井晴南

## 1. 研究の背景と目的

野生鳥獣による被害が農作物や森林被害だけでなく、人々の生活にも被害を齎す深刻な問題になっている。一方、現在、狩猟者の高齢化・減少が着実に進んでいる。狩猟者の減少が継続すれば有害鳥獣の捕獲など狩猟者が担ってきた公益的役割を担うことができなくなる可能性もある。

若者が興味を持っていても免許取得につながらない、また免許を取得しても積極的な狩猟への参加につなげていないのが現状である。狩猟者も若者もお互いに無関心であるため、増加を見込めず、減少の阻止できない。

そこで狩猟者と学生が関わることによって、狩猟者は学生に、学生は狩猟者にどのような影響を与えるのか、また双方の意識はどのように変わるのかを明らかにする。

## 2. 調査地

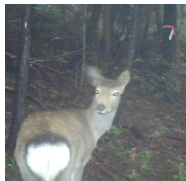
神奈川県足柄上郡松田町



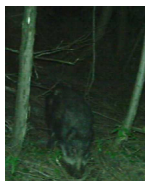
## 3. 調査方法①(狩猟者との関わり)

- ・3月2日～3月14日に猟友会の方とわなかへと見回りを行った。
- ・わなの近くにはそれぞれセンサーカメラ(動画、静止画)を設置した。

★センサーカメラに写っていた動物



シカ



イノシシ



ウサギ

3月6日にイノシシを捕獲した。捕獲したイノシシは銃によって止めさしをする。トラックに乗せて運び、ハンターの方のガレージで解体した。



## 調査方法②(アンケート)

・3月25日にすべてのわなを回収後、猟友会の方を対象に狩猟者の減少などに関するアンケートを行った。

対象: 足柄上郡猟友会松田支部の方々 6名

実施日: 平成27年3月25日

実施場所: 狩猟者O氏自宅

### アンケート内容

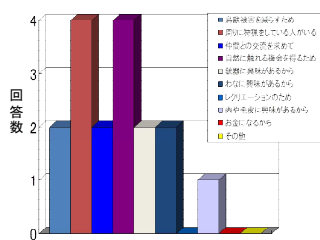
名前、年齢、住んでいる場所、狩猟歴、職業、免許の種類、対象動物

- ①狩猟を始めたきっかけ
- ②狩猟者が減っていることについて関心があるのか
- ③狩猟者が減っていることをどう思うか
- ④狩猟者が減っていることについて何かしようと思うか
  - ・狩猟者減少に対して狩猟者自身がすることはあると思うか
  - ・狩猟者はどんなことができるか
- ⑤狩猟者を増やすことに貢献するには何が必要だと思うか
- ⑥私たち学生は狩猟者を増やすために何が出来るか(自由回答)
- ⑦世間的に理解されず大変なことはあるか(自由回答)
- ⑧私たちが狩猟に参加したことをどう思ったか感想を教えてください(自由回答)
- ⑨学生に今やってほしいことはなんですか(自由回答)

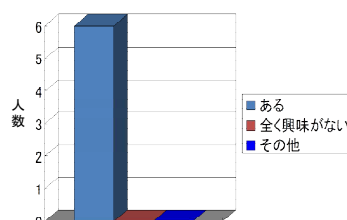
## 4. 集計結果

狩猟者6人  
年齢 66歳～86歳(平均年齢73.4歳)  
住んでいる場所 松田町  
狩猟歴 37年～67年(平均45.8)  
狩猟の頻度 週1回  
職業 農業(2名)、自営業(2名)、無職(3名)  
免許 わな猟免許(4名)、第1種銃猟免許(6名)  
対象動物 イノシシ、シカ、中型哺乳類

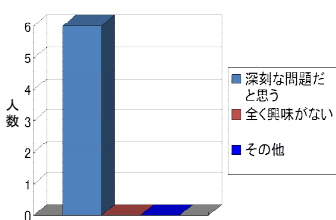
### ①狩猟を始めたきっかけ(複数回答)



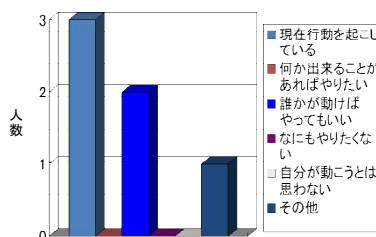
### ②狩猟者が減っていることについて関心は



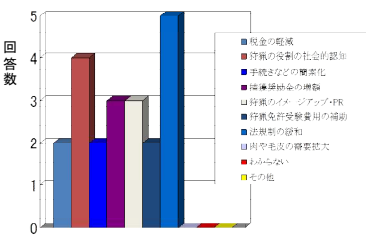
### ③狩猟者が減っていることをどう思うか



### ④狩猟者が減っていることについて何かしようと思いませんか



### ⑤狩猟者を増やすことに貢献するには何が必要か(複数回答)



### ⑥私たち学生は狩猟者を増やすために何が出来るか(自由回答)

- ・自分自身が猟友会に入り、狩猟者になる
- ・この経験をみんなに知らせてほしい
- ・有害鳥獣の事実をPR
- ・狩猟を手伝ってほしい(3回答)

### ⑦世間的に理解されず大変なことはあるか(自由回答)

- ・狩猟者に対して世間をもっと関心をもってほしい。
- ・銃を持っていること、また動物を殺すことに理解が必要。

### ⑧私たちが狩猟に参加したことをどう思ったか感想を教えてください(自由回答)

- ・今後も続けてほしい
- ・他の人にこの経験を知らせてほしい
- ・私たちの苦勞が理解できたと思う
- ・若い人が狩猟に興味を持ってほしい

### ⑨学生に今やってほしいことはなんですか(自由回答)

- ・山に出て狩猟に数多く参加
- ・愛護団体に対して猟の必要性のPR
- ・動物の命の理解を説く

## 5. 考察

・狩猟を始めたきっかけは周りに狩猟している人がいた、自然に触れる機会を得るためが多かった。狩猟者が減っていることに関心はあり、深刻に思っているが実際に現在行動を起こしている人は半数であった。狩猟者を増やすことに貢献するには法規制の緩和、狩猟の役割の社会的認知が必要であると考えていることが分かった。「狩猟者にもっと関心をもってほしい」、「銃器を持っていること、動物を殺すことに理解が必要」など世間に対する意見もあった。「今後も狩猟に参加してほしい・手伝ってほしい」、「みんなに教えてほしい」などの意見は全員のアンケートに記載されていたため、今後も交流を継続していくことが必要であると考えた。

## 6. 今後の課題

- ・学生と狩猟者との交流を継続していく。
- ・松田町内のシカ、イノシシの生息密度の濃淡マップを作る。その方法として猟友会と共同で、獣道の位置と数を調査する。
- ・また、その濃淡マップが猟友会の出猟範囲と重なっているのか検証するために猟友会が保有する出猟範囲のメモをマップ化し、重ねる。